

*「ポレーシェ」とは チェルノブイリ付近の湖沼低地帯をいう



南相馬にも食品測定室オープン!!



皆さん、こんにちは!「A&S 福島」の高橋です。
現在、南相馬市(市役所)では、食品の汚染検査を一般の市民向けに無料で実施していますが、受け付けている件数があまりにも少なく、とても市民の要求を満たすレベルではありません。

さて、いよいよわが「A&S 福島」にも、「チェルノブイリ救援・中部」や様々な方からの支援と応援で、食品の放射能測定器が12月に導入されました。今までは、機械の操作や計測データなどの勉強をしながら、研修という形で運営してきました。最近では、機械の操作にも慣れ、データの読み方なども、チェル救の河田さんや池田さん達にたくさんの事を教えていただきながら、何とか判るようになってきました。そして2月1日から本格的に稼働をスタートします。(詳細はP6~P7参照)

やっとここまでたどり着きました。頭の悪い私には、覚えなければいけない事がたくさんありすぎて、チェル救がいてくれなかったら、私の頭はとっくにパンクしていたことでしょう。今後は、皆様からの支援で与えられたこの「食品測定室」を、市民の安全と安心の為に最大限活用し、これから先、5年10年経って、内部被曝による病気などを1件でも少なくできるように、ガンバって測定を続けていきます。また、線量調査・汚染検査などと同時に、南相馬市の復興もしていかなければいけません。

南相馬市には今、仕事が少ない、医者的人数が足りない、看護師も足りない、私立の幼稚園や保育園などは支援がなければ運営しきれない…など、さまざまな問題が発生しています。「こんな状況を変えていかなければ…」そんな思いで、たくさんの活動団体が一つにまとまり動き出しています。(この話はまた次回、請うご期待!) それでは皆様、寒さに負けず、健康で笑顔の絶えない毎日が送れますように…。

〒466-0064 名古屋市昭和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター 地下1階

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行 名:三菱東京UFJ銀行 名古屋営業部(店番号150)

口座番号:普通 6949211

口座名義:特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部 理事長 神谷 俊尚

郵便振替:00880-7-108610

TEL / Fax:052-732-7172 (月・水・金 10:00 ~ 17:00)

ホームページ: <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

南相馬便り(近況報告)

(神谷 俊尚)

3.11 地震津波、原発事故から、まもなく 11 ヶ月を迎えます。南相馬市は事故発生後、「10Km 圏内の警戒区域(主に小高区)」「20Km 圏内の緊急時避難準備区域(原町区、9 月末に解除)」「計画的避難区域(飯館村、浪江町寄りの山側地域)」「特定避難勧奨地点(部分的に線量の高い地点)」「鹿島区等の指定のない地域」と、市内が 5 分割され、空間線量も山際(西)から海側(東)に向けて、推定追加年間被曝線量が、20 ミリシーベルト超~1 ミリシーベルトに幅広く分布する、非常に複雑な地域になりました。7 万人以上の人口が、事故直後は 1 万人前後となり、郵便局・銀行・スーパー・コンビニ・宅配便等々、全てのインフラが閉鎖され、異常な生活環境に押し込められました。現在の市内人口は、推定で約 42,000 名、まだ 28,000 余名が避難生活を余儀なくされています。「緊急時避難準備区域」の解除に伴い、10 月中旬に原町区内の一部の小中学校・高校が再開されましたが、市内に帰ってきた小中学生はわずか 16 名です。市教育委員会は年末、他の小中学校を 2 月末以降順次再開する意向を発表しました。それに伴い、原町区内で、小中学生の 4 月以降の在籍調査を行いました。平成 24 年 4 月時点で、「小学校 8 校…在籍予定数 2,535 名、就学予想数 1,202 名(47.4%)」「中学校 4 校…在籍予定数 1,255 名、就学予想数 760 名(60.6%)」と発表しました。しかし、原町区内の市立保育園は、3 園全て休園。市立幼稚園は、5 園中 2 園開園、3 園休園の方針です。

昨秋以降、全ての私立保育園・幼稚園は開園しています。在園率は 40%以下です。その中身も公立通園児を臨時的に預かっている数字で、本来の幼児通園率は 30%を切っているのが現状です。ほとんどの私立保育園・幼稚園は、存続の危機に立たされています(通園児数しか、公的援助がない為)。

国・県・市は年明け以来、大々的に除染活動をうたい始めました。しかし現実はどうでしょうか。南相馬市は、比較的線量の高い高倉地区 17 軒の実証実験除染活動を、1 月中旬に市除染活動協同組合加入の 4 社に発注しました。進行状況を市の担当者に確認したところ、「4 社から工程表の提出がなく、進行状況が確認できない。2 軒の除染の終了を確認できただけ」と、平然と回答。また、仮置場すら設置をせず、「個人の敷地内に仮置を了解した家のみ、庭の表土剥離を行うが、それ以外は行わない」と、言動を後退させているのが現状です。行政が行う除染活動の目標は、「2 年後で 50%の減少」としています。しかし、2 年後の放射性物質の物理的・自然的減衰は、約 40%弱あるといわれていますから、除染では 10%程しか減らす事ができないという意味なのです。これから何千億円を投入して、誰のために除染をするのか、市民は懐疑的にしか見ていません。

今、市民の切実な要望は、病院・医院の全面再開。市立病院は、500 床の入院患者を受け入れる基幹病院です。しかし、現在は 100 床しか受け入れ態勢ができていません。市内の医院には、「市立病院は医師不足である。これ以上患者が増えては、十分な診察ができない。新規患者は紹介してくれるな。」と、市内の医院を切り捨てています。これらの現状があるにもかかわらず、市当局は「安全な南相馬に戻ってください」と呼びかけ続けています。市民の安全より、行政の安泰しか頭にはありません。

しかし、一方で若者を中心として、市の再生を願う新たな活動も芽生え始めました。2 月 18-19 日開催予定の「南相馬ダイアログフェスティバル~みんなで未来への対話をしよう~」です。市内 15 団体(ほとんどが震災後設立された市民組織)が集い、「南相馬でイベントやワークショップを交えながら大きな対話の場を作っていこう」と集まり、2 月のフェスティバルを皮切りに、今後継続して行く大きな力へと生まれ変わろうとしています。

この若者たちの力が、南相馬を支え、市民中心の再建に向け、自らが行政を支えていく力へと結集できれば、南相馬の明日も見えてくるのではと期待をしています。



ニューイースカード ありがとうございました！



12月にはクリスマスがあり、続いてお正月がやってくるので、大人はなんとなし気ぜわしくなりますね。でも子ども達にとっては、赤や緑、金や銀などさまざまなクリスマス色があふれ、イルミネーションがきらめき、一年でもっとも心弾む月ではないでしょうか。

今回、名古屋市やウクライナから届けられたニューイースカードと、長野県飯綱観光協会から届いたリンゴを、市内数か所の保育園や幼稚園に配達いたしました。キリスト教系の園に限らず、いずれの園でも玄関からクリスマスの飾り付けがされ、ツリーが置かれています。手作りのみごとなオーナメントに、

つい目が奪われてしまいます。子ども達も、どんなにか楽しく飾り付けをしたことでしょう。

南相馬市は、大きな災害に翻弄された一年でしたが、子ども達はやはり元気いっぱいでした。先生の指導で並んだり、手を膝の上において座ったり、団体生活もすっかり身につけています。子どもって、こんなに小さなおうちからこんなに一人前でしたっけ？ 一人一人にカードの入った封筒を手渡すと、「ありがとう」と言いながらも、子ども達は意外にびっくりしたような、とまどったような感じ。「開けていいですか？」とか「中を見てもいいですか？」とか聞かれました。こんな風な形でのプレゼントは、きっと初めての体験だったに違いありません。封筒を開いた子ども達の目は突然輝き、歓声が次々にあがります。先生に報告に行く子どももおりました。「おうちに帰ったらおとうさんとおかあさんに見せたい。」

遠くの国や遠くの町に住む方々のお心づくしを、このように楽しい形で体験させていただき、本当にありがとうございました。配達役を買って出た私たちも、子ども達の笑顔に囲まれ、思いがけない喜びをいただきました。心から御礼申し上げます。(A&S 福島 伊賀和子)

届け！ウクライナの子ども達へ！ …クリスマスカードキャンペーン中間報告… (Nタマ 柿野美美江)

皆さんこんにちは。お久しぶりです。カードキャンペーンの報告をさせていただきます。10月から始まったカードキャンペーンですが、最終的に集まったカードは、クリスマスカードが2,205枚、ニューイースカードが926枚で、合計3,131枚となりました。12月16日と17日の2日間をかけて、無事、発送作業を終わらせることができました。

発送作業日は「結構集まったなあ。現地の子ども達は喜ぶだろうなあ。」などと思いつつ、有志の方々と、カードと折り紙を手作りのチラシ封筒に詰め、最後に枚数を数えて、送り先を確認しました。箱数にして、ウクライナへ4箱、福島へ2箱。ただの箱ではありませんよ。協力してくださった方の「想い」のつまった「重い」箱です。…が、福島へのニューイースカードは無事に届きましたが、ウクライナへのカードは今なお届いていないのです。何やら、税関のシステムが変わったとか何とか。山盛さんや現地の皆さんが、年末年始にかけて、このハプニングを切り抜けようと必死になって手を尽してくださったのですが、結局、突っ返されてしまい、日本の事務所に戻ってきてしまいました。やり取りを聞いてみると、「ウクライナの税関って、手際が悪いし、ちゃんと機能しているのかしら??」と、誰もが思うような内容でした。戻ってきた箱を見て、思わず溜め息が出てしまいました。山盛さんの目にも悔し涙がはらり。本人曰く「鬼の目にも涙」だそうですが、鬼どころか阿修羅王でも、悔しさに涙がでるんじゃないでしょうか。

現在、このような状況ですが、皆さんの想いは絶対に届けます。現地のキリチャンスキーさん達も、「遅れても必ず子ども達に届ける」と言ってくれています。届くという確証のある条件を揃えて、届くまで何度でもトライしようじゃありませんか。ここで引き下がるわけには、いきません！！

今回は、本当の意味で「ご協力ありがとうございました」と綺麗に終わらせることができませんが、次回こそは、「届きました」との報告とともに、綺麗にお礼が言えるよう、切に祈っています。

2月訪問団としてウクライナに行ってきます!!

(兼松 真梨子)

2月訪問団として、ウクライナ派遣に同行することになりました。初めてのウクライナ。不安と期待が入り混じったような、何かそわそわした心持ちでいます。日程は、2月26日から3月9日までの13日間です。その間に、「国立シトーミル農業生態学大学のディードゥフ氏とナタネ栽培におけるデータ分析結果についての話し合い」「来年度の支援活動についての計画作り」「州行政によるナタネ栽培拡大の計画について、シトーミル州知事との面談や大使館への訪問」などを予定しています。ナロジチでは現地報告会を開き、「菜の花プロジェクト」の進捗や今後についての報告を行います。



私の主な仕事は、現地カウンターパートのホステージ基金と会計処理についてのすり合わせと、期間中の書記と会計係です。訪問団のメンバーは、河田・兼松・竹内の3名です。初めてのウクライナ訪問を目前にして、今の率直な気持ちを書きたいと思います。チェル救で働き始めてちょうど1年の節目に、現地へ訪問団として行くことができ、とても嬉しく思っています。この1年間は、私の目の前を仕事がどんどん通り過ぎていくようで、加えて福島での事故があり国内向けの活動が急務となるなか、ただひたすら皆さんについていくのに必死で、長年続いてきたウクライナでの活動について勉強する機会が乏しかったように思います。特に「菜の花プロジェクト」は内容が専門的で、資料や写真で見たり話を聞いたりするだけでは、表面的なことしかわかりません。今回の派遣で実際の現場に行き、話だけで聞いていたことをこの目で見て感じてきたいと思っています。

チェルノブイリ原発事故が起こった当時、私はまだ2歳で、事故のことや「放射性物質が日本まで飛んできた」ことなど、知りもしませんでした。事故のことは、小学校の頃に社会の授業で教わって知ったと記憶しています。しかし、原発事故がどんなものなのか、放射能とは一体何なのか、チェルノブイリがどこにあるのかさえ、しっかりと教わらなかったと思います。自分の生活と関わりのあることだとは思えませんでした。しかし、事故から25年経ち、こうして私の生活と深く関わりを持つとは思いませんでしたし、まさか日本が深刻な汚染にさらされるとはこれっぽっちも思いませんでした。そんな私が来月にウクライナの地へ行くと思うと、本当に不思議な気持ちです。チェルノブイリ原発4号機の石棺も実際に見てみたいとは思っているのですが、今回は予定にはなく、せっかくなのでチェルノブイリ博物館には行ってきたいと思っています。贅沢にも、河田さんの解説付きで。

私にとってウクライナは、まだまだとても遠い国です。ウクライナについて知っていることなどほとんどありません。(チェル救のスタッフとして働いているのに、お恥ずかしい限りですが…) だからこそ楽しみでもあり、どんな発見ができるのか? ウクライナという国や人々に、どんな印象を抱くのか? 現地の方々はどうな人たちなのだろう? と、期待が膨らみます。去年のチェル救の忘年会では、大先輩の皆さんから「寒いからカイロは必需品よ。いや、カイロは寒すぎて役に立たない。ジーパン&スニーカーじゃあ寒いわよ。厚底のブーツがいい。向こうでは乾杯のスピーチがあるから何かクーモアのある乾杯を…(つづく)」。頭に入りきらないほど色々とおアドバイスをもらい、軽いパニックに陥った私でした。極寒の地で寒がりの私が耐えられるのか、それが一番の心配でもあります。どうか体調だけは崩しませんように…と、弱気なふりをしていますが、今回の訪問で「河田さんの酔っぱらう姿」を密かに楽しみにしていることは秘密です。



<作り直した脱硫装置>

脱硫装置を現地に送る

(原 富男)

昨年秋(9月21日~10月28日)に実施した、ラスキ村での放射能除去装置の取り付け工事から、もう3ヶ月近く経とうとしています。

帰国後は生活するための稼ぎに追われて、これまで忙しい生活をせざるをえませんでした。ラスキのバイオガス施設に必要な「脱硫装置(危険な硫化水素を取り除く装置)」は、昨年の火事で燃えてしまったため、代替品を現地で作るべく努力したのですが、

結局はウクライナに適当な材料がなかった為、日本で作って現地に送ることになっていました。帰国後すぐ作れば良かったものの、溜まっていた仕事に追われ、できたのは11月末でした。

現地との約束から一ヶ月も遅れてしまいましたが、冬期間のガス発生への支障になってはいけないうので、12月20日に航空便で発送しました。21日にはキエフのボリスポリ空港に到着しー安心。

ところがそれからが大変。(前ページのクリスマスカードと同じようにトラブル発生!)12月28日に、農大のディードフ氏がキエフの空港に行き税関手続きをするも、「ウクライナの関税が変わった」という理由で脱硫装置は受け取れず、個人宛にしなければ手続きが大幅に遅れるということになり、日本からの書類の作り直しと発送なども行い、ようやく1月26日に受け取れる見通しが付きました。実際に受け取ってみななければ安心できませんが、ウクライナの社会の病の深刻さを、改めて認識しました。ラスキのバイオガスは、冬期間であるにもかかわらず、「細々」ですがガスは発生しており、秋に工事をした牛舎の事務所までのガス配管により、200m離れた事務所でもガスが使えるようになったという報告が入っています。また、放射能除去装置の小屋も内壁に断熱材が施され、でき上がったとのこと。これで脱硫装置が取り付けられたら、何の心配もなく原料を投入しガスを発生させることができます。無事、脱硫装置が引き取れますように…。

東北を みんな 応援している! 東北で みんな 頑張っている!

1月21日、名古屋 NGO センター主催の「東日本大震災 NGO 支援活動報告会」に参加しました。

主に途上国支援を行っている5団体が、3・11以降の東北で、そのノウハウを生かして行ってきた活動報告会です。

「救援・中部」は神谷さんによる報告でした。福島での支援の足掛かりをどのように作っていったか、放射線量測定を行うことになったいきさつ、そこから生まれた市民の方たちとのつながり、汚染マップの紹介などなどです。

報告会の後半では、体験コーナーが設けられ、チェル救は「空間放射線量率測定の模擬体験」をしてもらいました。初めて測定器を手にもされる方も多く、測定器が普及しつつある現状に心を痛めておられる様子でした。

私自身、他の団体の報告を聞くのは初めてで、とても興味深かったです。なかでも「レスキューストックヤード」の“足湯”は素晴らしい。ボランティアの方が被災者に、足湯と手のマッサージをしながら会話をし、心を寄せ合うのです。家族や同じ立場の被災者には話しにくい“つぶやき”を、丁寧に拾い上げ、汲み取っていく。心温まる支援です。チェル救を除く4団体は、救援物資支援から始まりましたが、今は被災者の心の支援、憩いの場づくりに重きをおいているようです。今後の支援のヒントがいっぱい詰まっている報告会でした。

(市原)



「東日本大震災 NGO 支援活動報告会」の様子。活動の説明をする神谷さん。

市民の力で食品の放射能測定を開始

(A&S 福島 奥村 岳志)



1月8日と9日、南相馬市「A&S 福島」事務所で、放射能の基礎的な問題と放射能測定器の使い方についての勉強会が行われました。名古屋から、「チェルノブイリ救援・中部」の河田さんを始め、多くの人びとが参加しました。最初に「放射能とチェルノブイリの被害」というテーマで報告があり、その後、質疑と討論が行われました。

引き続き、放射能測定器「ガンマ線スペクトロメーター LB-2045 (ドイツ・ベルトールド社製)」の使い方について、A&S 福島の高橋慶さんから説明がありました。

実際に食品を測定

この日は、実際に食品を持ち込んで測定を行いました。

原町区内の自家菜園で採れた玉ねぎと熟し柿です。まず、細かく刻む・ミキサーにかけるなどの前処理をし、重さを図った上で、汚染防止のためのポリ袋を被せた専用の容器に入れます。そして、検体の入った容器を検出器へ。測定時間は通常 30 分。ただし濃度の低い検体の場合は、精度を上げるために 10 時間ぐらいかけます。



【食品放射能測定器】
ガンマ線スペクトロメーター
LB-2045 (ベルトールド社製:独)
NaI (TI) シンチレーション検出器

NaI(Tl)シンチレーション検出器

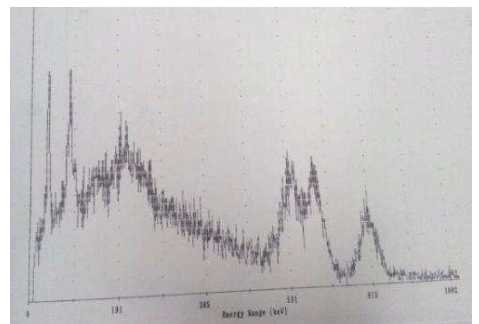


この装置は、ガンマ線を出す放射性物質を核種 (^{131}I ・ ^{134}Cs ・ ^{137}Cs など、原子核の状態で分類した原子の種類) ごとに判別し、その濃度 (Bq/kg) を調べる装置です。放射性物質は、核種ごとに放出されるガンマ線のエネルギーが異なり、たとえば、 ^{137}Cs は、662 キロ電子ボルト (keV エネルギーの単位)。 ^{134}Cs は 569 keV・605 keV・769 keV の三種類。この相異に着目して判別を行います。ところで、NaI (TI) とは、ヨウ化ナトリウム (NaI) に微量のタリウム (TI) を添加した結晶。

シンチレーションとは蛍光。ガンマ線が NaI (TI) の結晶に入ると、ガンマ線のエネルギーに比例して蛍光 (シンチレーション) が発生する。この性質を利用して、ガンマ線によって発生した蛍光を電気信号に変換する。そうするとガンマ線のエネルギーごとに、単位時間 (1 分ないし 1 秒) 当たりのガンマ線のカウント数 (cpm ないし cps) が得られ、その結果を横軸にエネルギーの大小、縦軸にカウント数をとって、スペクトルで表示します。右のグラフにあるのが、ガンマ線スペクトル。ピーク (山) がいくつかある中で、右から一つ目と三つ目が ^{134}Cs のピーク、右から二つ目が ^{137}Cs のピーク。

このピークを中心とした面積から、一定の統計処理と換算式を経て、放射性物質の濃度 (Bq/kg) が算出されます。福島で現状で問題になる核種は、 ^{134}Cs と ^{137}Cs 。

また、ストロンチウム 90 はベータ線、プルトニウム 239 はアルファ線と、放出する放射線が異なるため、この装置では測定できません。





測定の結果

原町区の民家にあったユズを皮ごとミキサーにかけ、測定してみました。30分後、測定結果がプリントアウトされました（P6のグラフ参照）。Cs137が1,131Bq/kg、Cs134が915.9Bq/kg。合計で2,046.9Bq/kg。かなり高い濃度の汚染です。事故直後は花も実もなかったので、その後の「葉面吸収（葉から直接、放射性物質を取り込む）」が原因と思われます。

また、原町区片倉で採取したスギの雄花を測定したところ、結果はCs137と134の合計で、9,531Bq/kg。これだけ汚染されたものが、これから花粉となって飛ぶことになります。

食品新基準も甘い

これまで住民は、空間線量率測定を通して、放射能汚染の現状を住民自身でつかみ、その対策を考え、行動をしてきました。さらに、ひとつひとつの作物や食品の汚染度が分かったとしても、それを単品で丸ごと食べているわけではありません。1日3食で、どれだけのセシウムを取り込んでしまっているのか？ それをどれくらいに抑えたいのか？ 抑えるにはどうすればいいのか？ このような観点から、「陰膳方式」による測定も必要になります。さらに、4月から食品の放射性セシウム基準値が改訂されます。一般食品については、これまでの暫定基準値500Bq/kgが、新基準値では100Bq/kgに改訂されます。ウクライナでは、食品に由来する内部被曝によって慢性疾患が多発し、子どもを始め多くの人びとが苦しんできました。その痛苦的教訓から、たとえば野菜で40Bq/kg、果物で70Bq/kg、飲料水では2Bq/kgと、はるかに厳しい基準を取っています。

状況は、甘くありません。子どもをはじめ、この地域で生きざるを得ない人びとの命と健康を守るために、行動しなければなりません。

食品測定ボランティア

（A&S 福島 山田 順子）

汚染の地域に住み外部被ばく、さらに食物で内部被ばくする私たち。この現実はどう対処したらよいのだろうか？ そんな時「食品測定ボランティア募集」を見て、これから一番必要なことではないかと参加しました。研修では、市水道水・井戸水・玄米（県内外）・精米や、野菜（大根・人参・白菜他）、数値の高かった柿・ゆず・キウイ・ミカン等の測定を実際に行いました。

測定においては、「検出限界」を知ることが参考になりました。検出限界は、測定装置の性能だけではなく、サンプルの量と測定時間によって変わります。検出限界は、30分の測定で10Bq/kg位になります。研修も順調に進み、2月1日より、放射能測定センターの運営を開始します。

4月から、食品の放射性物質の新基準が適用されます。安全とも安心とも思えません。放射性物質はできるだけ少なくしたい。何ベクレル以上は危険という線引きもできませんが、測定することにより安心して食べられる。生産者も測定することにより自信を持って安全を知り、作った人と食べる人の信頼を少しずつ回復していき、地元の食材の安全を取り戻せたらと思います。

あらゆるものを測って、生産者と消費者という線引きでもなく、両方が協力してできるだけ放射能の摂取を少なくすることが大切だと思います。しかし、生産者と消費者のどちらもきちんを守れるような基準や補償のシステムは、いったいいつになったらできるのでしょうか？


2/1(水) 10時 オープン!
「放射能測定センター・南相馬」

**測って
みませんか?**

★ 自家栽培の野菜、井戸の水、畑の土、毎日の食事・・・
風になるものを測ってみましょう。
★ 2月1日(水)10時、原町区に「放射能測定センター・南相馬」が
開所します。お開館に備えて下さい。申し込み方法はチラシ裏面へ。

A&S 福島 **アクティブ&セーフティー福島 事務所**

〒975-0021 南相馬市南相馬区緑2-67
TEL: 0244-25-2418
FAX: 0244-25-1417
(休館 定休日)
Eメール: medgushi@afukushima.org
ウェブサイト: <http://www.afukushima.org>



食品測定器をもう1台キャンペーン カンパ大募集！



福島第一原発事故より10ヵ月、まったくの手探り状態からフクシマ支援をたどり始めた「救援・中部」に寄せられた多くのカンパで、ついに2月より、南相馬市の市民団体「A&S 福島」による食品測定所がオープンします。1台300万円以上もする高額な機器を、このような短期間で設置できたことを、読者の皆様に深くお礼申し上げます。

新年早々から休日返上で、ボランティアの方々による食品測定の講習が始まりました。測定をして解ってきたことは、仕様の異なる機器がもう1台あれば、より精密に測定できる、また、測定

作業の効率もアップするという事です。また今後、検体の数が増えることは間違いなく、その対応も求められます。

そこで「救援・中部」では、もう1台、食品測定器の購入を決定しました。南相馬市に住み続ける方たちに、少しでも内部被曝の不安を取り除いてもらうためにも、1検体でも多く測定したい、そんな想いが詰まった測定器です。皆様に引き続きのご支援をいただけるよう、切にお願い申し上げます。



静岡サレジオ小学校訪問

12月23日(金)、今年も静岡サレジオ小学校の「クリスマス会」にお招きいただき、訪問してまいりました。

“みんなを信じて、一歩前進”が今年のテーマでした。

サレジオ小学校の「クリスマス会」は伝統があって、4年生は「創作オペレッタ」、6年生は「クリスマスパージェント」聖書の朗読劇です。演じる子ども、観ている子ども全員が参加して、とても楽しく感動しました。

最後に、サレジオ小学校後援会と、児童会から「チェルノブイリ救援・中部」と地域の社会福祉協議会の方に、寄付金の贈呈式がありました。

児童会のみなさんが、この1年間に昼食代を節約して貯めていただいたものです。今年は、福島の子ども達にもいただきました。サレジオ小学校のみなさんには、長きにわたってのご支援、本当にありがとうございます。みなさんの大切なご支援を、チェルノブイリの子ども達と福島の子ども達にしっかり伝えてお届けいたします。

(大谷 早苗)

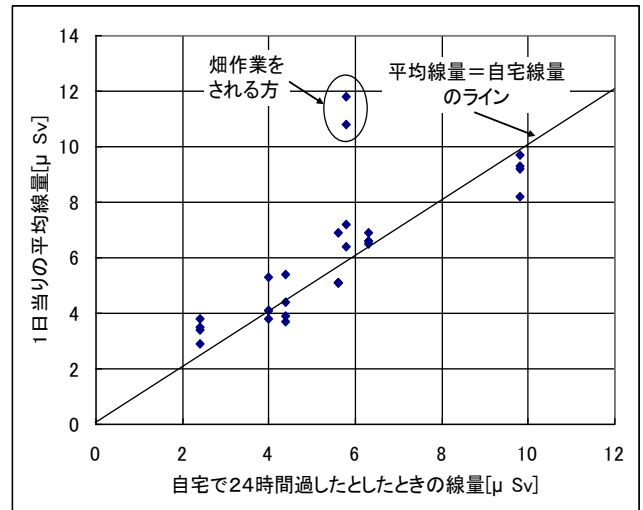


生活線量調査結果報告 ～自宅の放射線量が大きく影響～

(池田 光司)

昨年7月から9月にかけて、主に福島市と南相馬市の方々にご協力いただいて、生活線量調査を行いました。生活線量調査とは、1日に浴びる線量と1日の行動（主に過した場所と時間、その場所の時間当たりの線量）を記録していただいて、どこで多くの放射線を浴びるかを調査するものです。ねらいは、どこで浴びる線量を重点的に減らしていけば良いかを、明らかにすることにあります。除染というと、とにかく線量の高いところを探して行うという傾向も見受けられます。しかし、それでは1日に浴びる線量は減らないのではないかという懸念から、この調査を行いました。今回は、福島市の7家族（いずれも4人家族）の方々のデータ解析結果を基にご報告します。

右のグラフは、1日に実際に浴びた線量と1日自宅に居たとして浴びる線量の関係を示したものです。1点1点が一人ひとりのデータとなり、28点、28人分のデータがプロットされています。グラフから分かるように、1日に実際浴びた線量と、1日自宅に居たとして浴びる線量が、よく比例していることが分かります。縦に並んでいる点が、一家族分のデータになりますが、家族の中での線量の違いに比べ、家族と家族の間での線量の違いが大きいことが分かります。違いの大きさを計算して比較すると、1：9にもなります。家族の中での生活スタイルの違いよりも、自宅の線量の違いが大きく影響するという結果です。なお、自宅で過ごす時間は、平均で17時間、多い人で23時間、少ない人で11時間という結果でした。また、長時間畑作業をされた方は、その分浴びる線量が増えていました。線量のレベルとしては、名古屋だと1日 $2\mu\text{Sv}$ 程度（自然放射線の影響）ですから、その2倍、3倍、5倍の線量となっています。



まず自宅の線量を下げることがあります。しかし、現状は困難なことも多く、大変な思いをして家の除染をしても、あるレベルからはなかなか下がらないという話を聞きます。疲労感は、いかばかりでしょうか。私などでは、到底測り知れないものがあると思います。

でも、今回の調査の線量は放ってはおけないレベルです。何とかならないでしょうか。例えば、家の屋根や壁に付いた放射性セシウムの影響よりも、家の周囲から家の中に入ってくる放射線の影響の方が大きい場合、どこから放射線が家の中に入ってくるかを調べて遮蔽すれば、除染よりも効果的な場合もあります。測って、考えて、試す。「この1軒の家の線量を何とか下げたい」、その気持ちでみんなの知恵と力が集まれば、まだまだできることはあると思います。突破口はきっと見つかります。

何億円、何十億円というお金をかけて除染が行われようとしています。残念ながら各個人宅の線量が今回調査した線量レベルより格段にさがる可能性は低いと思います。方法の問題もありますが、何よりも決められた仕事として除染が行われるからです。まだまだ多くの人の思いと知恵と力が必要です。微力ですが、私も思いと知恵と力を差し出せたらと感じています。力合わせて、一緒になって自宅の線量を下げてください。

最後に、今回の調査にご協力いただいた方々に感謝するとともに、報告が遅くなりましたことお詫び申し上げます。

霞ヶ関の犯罪

福島原発震災から 10 ヶ月が過ぎた。今、政府は「脱原発依存」の建前とは裏腹に、停止中の原発の再稼働や既存原発の延命に、原発の未来を託そうとしているかに見える。エネルギー危機をおおる経済界とともに、原子力産業を温存し、国内がダメなら海外へとばかりに、原発輸出さえ宣言してはばからない。脱原発の未来への扉を閉ざそうとしているのは誰なのか。この間の霞ヶ関の対応を振り返る。

(その 1) それはスピーディから始まった

スピーディは、そもそも原発事故時に放射能の拡散予測を行い、被曝を減らす目的で開発され、1985 年から年間約 8 億円の維持費を使ってきた。ところが福島原発震災が起こっても、その予測データは公開されず、住民は風下に避難して被曝をしてしまった。気象庁はその理由について「不確かなデータで国民の不安を煽ってはいけないからだ」と弁明した。ところが、日本国民への公開より 9 日も早く、米軍には通報していた。今年になって政府は、今後スピーディのデータは使わない、と決めた。一体何の為の開発なのか。(文科省)

(その 2) 年間 20 ミリシーベルトの被曝

政府は 4 月 19 日、福島県内の学校などで「年間 20mSv までを許容する」と発表し、大きな批判を浴びた。母親達の抗議に「年間 1mSv を目指す」と訂正したが、20mSv の基準を撤回したわけではない。ICRP でさえこの範囲で「できるだけ低い目標を定めるべきだ」としているが、この決定に誰が主要な役割をしたのか定かでない。(文科省)

(その 3) 食品暫定基準の改定問題

現在の「暫定基準」は、あくまでも事故から 1 年以内の基準である。これでは到底国民の健康を守れない。暫定基準の改定を目指して答申を求められた「食品安全委員会」は、「3000 に及ぶ文献を読んだ結果、生涯被曝線量が 100mSv 以下なら OK」と答申した。これは、事実上何も答えていないのも同然で、「暫定基準のままでも良い」とも解釈できる。(厚労省)

(その 4) 放射能は海で薄まり魚の汚染はない

大量の放射能汚染水が海に流れ込んだ際、3 月 29 日に水産庁は、「放射能は大量の水で薄まるので、魚の食物連鎖は心配ない」と宣言した。しかし、その後の事実は大きく異なる。福島沖のみならず、近隣海域でもすでに汚染魚は採れている。最近になって、内陸部の湖でも淡水魚の汚染が判明。水産庁の専門家達は、何を根拠にこんなことを言ったのか。(農水省)

(その 5) 汚染牛肉と汚染砕石の共通性

8 月になり、福島からはるかに遠い関西や全

国で、牛肉のセシウム汚染が発覚した。原因は、爆発事故当時野外に置かれていた「稲わら」であった。農水省は、そうした可能性に全く思いもよらず大きな汚点を残した。ところが、今年になって、20km 圏内の砕石場でとれた砕石で作られたセメントやコンクリートで建てられたマンションや道路で、強い放射能汚染が判明した。国土交通省は、こうした可能性に全く思い至らなかった。どちらも考えれば当然の事態であった。(農水省、国交省)

(その 6) 電力危機のまやかし

昨年の夏、国は原発事故で電力不足が必至、と企業や家庭の電力消費節約を訴えた。その際、電力会社毎に発電能力と最大消費見込みを組みあわせ、危機を煽った。その結果、数%の電力余裕が確保され、緊急停電には至らなかった。ところが最近になって、この余剰電力には約 6%の「持続可能エネルギー」分は入っていなかったことが判明した。全原発が止まっても電力危機はなかったことになる。なぜこんな事を？(経産省)

(その 7) 冷温停止「状態」の意図は

現在も毎時 20 トンの冷却水を注入しながら、「冷温停止状態」を宣言した。あたかも事態が収束したかのような世論操作の意図は明らかである。事故を過小評価し、世論を味方につけて原発批判の高まりを鎮める、その一点に尽きる。

(その 8) ストレストテストのまやかし

地震や津波対策を、コンピューターの模擬テストで確かめる。「これまでの対策で充分」との結論は、初めから見えている。安全保安院は、関西電力から出された大飯原発のテスト結果に早速合格を出した。IAEA への答申も形だけである。これが前例となり、電力各社から既に提出されている 17 基の原発のストレステスト合格は、既定路線となるだろう。

これら全ての動きは、政府の脱・脱原発路線への傾斜を物語る。事故の影響をいかに小さく見せ、世論を誘導して脱原発から逃れるか、である。我々にとって、この 1 年が勝負である。(河田)

竹内さんのウクライナ便り

任期中にロシアと締結したガス輸入に関する契約により、ウクライナに損失をもたらしたかどで実刑判決を受けたティモシェンコ前首相は、12月30日ウクライナ東部ハルキウ市の刑務所に移送。抗議行動の盛り上がり避けるため、故意に年末のせわしない時期が選ばれたのではという見方が有力です。その後、彼女の夫は家族への圧力を理由にチェコに政治的亡命を申請して認められ、ある世論調査では、前首相の支持率が現大統領ヤヌコヴィチ氏の支持率を超えたという結果が出ており、「彼女は自分では何もしままま、同情を集めて人気を高めた」と揶揄する向きもあります。一方、ロシアとのガス価格に関する交渉は結局遅々として進まず、エネルギー・石炭産業相ポイコ氏は、ロシアからのガス輸入量を減らし、国産の資源（石炭等）に移行する考えを表明。ドネツクで行われていた事故処理作業員らのハンガーストライキは、11月末にテントが夜間に強制撤去され、その際70代の男性が心臓発作で亡くなるという事件が発生。すぐさま事故処理作業員らの抗議行動が全国に拡がり、キエフの内閣前でもハンストが始まった結果、政府は1月から彼らへの年金を法に決められた通り支払うと声明を出して妥協が成立しましたが、現実には必ずしも全員に対しそのような措置が取られているわけではないようです。

私は1月中旬から、キエフを訪問された山口県宇部市の市民団体代表Iさんの通訳をしていました。Iさんたちの団体は、チェルノブイリ事故後キエフ市に移住した元プリピャチ市民の互助団体を支援しているのですが、その団体は現在賃借している幼稚園の一角のスペースを明け渡すようキエフ市行政から要求され、同じ地区内の元住宅管理局事務所のスペースを提供されることになっています。しかしその移転先は、28年前に建てられたまま改装をしておらず、電気工事や内装工事が必要で、しかも一室は住宅管理局の当直室として使用中のままです。この当直室には、担当地域内のエレベーター・ガス・電気関係でトラブルがあると、それがランプで表示されるパネルが



<キエフ・ナイチンゲール合唱団関係者と
(都心の独立広場にて2012. 1. 16.) >

あり、これを移転するためには80万円程度がかなり、地区にその予算がないからだそうです。Iさんは、この件で陳情するため、互助団体の代表とともに地区行政の副行政長に面会されました。副行政長は30代前半かと思われる若さで弁舌滑らか、自身もプリピャチからの移住者ということでしたが、話の後半はもっぱら昨秋地区内の「京都公園」（キエフ市と京都市が姉妹都市なため、この地区内に「京都通り」という通りがあり、それに沿って石庭らしきものが造られた公園があった）がリニューアルされ、日本から持ち込まれた桜370本（だか380本だか）が植えられた並木道ができ、その開園式に京都市長を含む大人数の派遣団が日本から参加した……という件に費やされました。この「京都公園」内には、日本料理店を含む日本文化センター的性格の施設を建設する予定もあるのだということでしたが、「そういうお金があるのなら、我々が陳情に来たその件についてもなんとかしてほしい」と大いに突っ込みたいところでした。京都からの派遣団の方々は、この地区に86年、3万人ほどの元プリピャチ市民が移住先を提供されたことなど聞かれたのでしょうか？ ちなみに同じ昨秋には、福島県の地方自治体議員や福島大関係者からもこの互助団体を訪れ、短時間ながら熱のこもった交流があった由。Iさんは「このような互助団体が25年間活動し、被災者たちが支え合っているということが、福島原発周辺から移住を余儀なくされた人たちの希望ともなるはず」と語っておられました。

(1月25日)

事務局便り

新年早々、大変残念なお知らせをしなければなりません。

昨年12月19日にウクライナへ発送したカードが、この1月25日事務所へ返送されてきました。12月19日に毎年同様の手続を行い、問題なく発送作業を完了しました。しかし、ホッとしたのも束の間、ホステージ基金から、「届いた荷物が受け取れない」との連絡が入りました。ウクライナに届いた荷物の取り扱いに誤りが発生。到底日本では考えられない税関の要請が続きました。事務局としては、逐次現地の二転三転する要請に応じ、暮もぎりぎりまで対応。正月も急遽出勤し対応し、その後も現地へ受け取るまで諦めないようメッセージを飛ばしましたが、結局、昨年変更された税関に関する法律に基づいた税関の勧告を受け、ホステージ基金が日本に返送することを了解したとの連絡が入りました。事務局としては、なんとか現地の子供達に届けたいと精一杯努力しましたが、残念ながら功を奏さなかったことを皆さまにお伝えし、心よりお詫び申し上げます。また、今後の対応ですが、確実に届くよう厳密に情報を入手し、再度送り届けたいと考えております。(山盛)

一新刊のご紹介



「チェルノブイリの菜の花畑から」
創森社刊: 定価 1,680 円(税込) 共著

放射能汚染下でどう生きればいいのか?
20年間のチェルノブイリ救援を通じて考える。

「チェルノブイリと福島」
緑風出版: 定価 1,680 円(税込) 河田昌東: 著



*本屋さんでお求めいただくか、チェルノブイリ救援・中部 事務所まで(送料込みで2,000円/冊)。

編集後記

- ☆防寒対策必須アイテム GET のためユニクロで徘徊すること1時間以上、買い込んだタイツ、ソックス、インナー類は私を冬将軍から守ってくれる防衛隊。ありがとうヒートテック。(佳)
- ☆食品放射能測定で使ったサンプルに興味深いデータがあった。川の上水はND、川底の泥は高値。あれっ!? 確か冷却水って垂れ流したよね…恐ろしいほど水底に溜まってんじゃないの?(美)
- ☆いよいよ、世界が一変するであろう激動の年、2012年が幕を開けた。中国やロシアをはじめとする、アジア・アフリカ・中東・中南米の諸国120ヶ国以上が、ドル以外の通貨で国際取引を始めている。世界のドル・ユーロ離れは加速し、欧米の金融マフィアが、急速に力を失いつつあるのだ。昨年末の金正日死去に伴い、水面下では、南北朝鮮統一やアジアを中心とした新たな世界経済構築も進められているという。世界最大の債権国であり、この変革の鍵をにぎる私達日本人は、いつになったら目覚めるのであろうか? 今こそ、情報リテラシーを研ぎ澄ませ、世界の変化を先取りして、大好きな福島・日本そして地球を、復興・再建(福好再見)する絶好のチャンスである。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14
印刷「エープリント」
TEL・FAX (052) 871-9473